

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500208		
法人名	株式会社 は一とふるセゾン		
事業所名	は一とふるセゾン桂川		
所在地	京都市南区久世上久世町253-3		
自己評価作成日	令和4年4月15日	評価結果市町村受理日	令和5年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2690500208-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2690500208-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会		
所在地	京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	2022年4月28日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしい笑顔でこの町に暮らす」という理念を掲げ、その人らしい暮らし、その人らしい笑顔を引き出せる支援をスタッフ一同心がけています。ご利用者様それぞれの生活のリズムを大切に、食事の時間もその方のリズムに合わせて提供しています。常に利用者本位で暮らしていただくこと、これをモットーにしています。入浴の回数やケアプランの希望など、ご本人様とご家族様にお聞きしニーズに答えています。職員の働く環境については、有給休暇を取りやすい環境、それに対応した人員配置をしております。職員の自己研鑽に対する情熱を大切に、スキルアップするための研修情報を職員に共有しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は2021年2月に開設された新しい事業所です。立地は、JR桂川駅から徒歩数分の閑静な住宅街にあり、近隣にはショッピングモールがあるため、気軽にお買い物に行くことができます。認知症になっても“人として当たり前”に、住み慣れた街でその人らしく暮らす”という思いのもと、「介護を受ける場」ではなく、穏やかに、生き生きと「暮らす場」であるように管理者、職員は日々のケアに努めています。27名定員で3ユニットに分かれ生活をされており、居室は全室個室で各室にはトイレと洗面台が設置されています。また、建物の入り口には花壇が植えられていて、その側にはさすが置かれ交流できるようになっています。訪問調査の際も1階リビングでは全員集まって、お互いの会話や助け合いもあり、活発に賑やかに過ごされていました。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念とは別に『ケア理念』も掲げ、それを各ユニット共にスタッフルームに見えるところに貼り出している。目につくところに置くことで毎日の実践に繋げている。	事業所の理念「自分らしい笑顔でこの町に暮らす」に沿って「ケア理念」を作成し、スタッフルームに掲示をするとともに意識をしてもらうことで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設前に地域の方にご挨拶をし自治体との交流の場には参加させてもらえるようお願いをした。しかしコロナ禍ということもあり、難しいところもある。今後の課題としていきたい	近隣に散歩や買い物に出かけたり、地域の方が施設見学・相談された事例もあった。しかし、コロナ禍に加え、1年前に開設された事業所であり、地域とのつながりは今後の課題と認識している。	地域との交流を図る取組を期待します。(敷地内の花壇スペースの活用、防災に係る取組など)
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で近状報告をしている。その時に認知症の方への理解や支援の方法を説明している。地域の方が施設に来られ相談されることもあり、その都度見学して頂いたり質問に答えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進介護を開催している。コロナ禍においては運営推進会議のメンバーの方に施設内の取り組み、ヒヤリハットや事故の件数の報告、事故の事例を報告して今後の取り組みについても説明している	家族や地域住民の代表、地域法支援センターなどの参加を得て2か月に1回開催されている。(一部、コロナ渦の中で書面報告)事故やコロナ感染などの報告が行い、意見交換して運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定調査の依頼をするとき、施設の実情や取り組みをお話するようにしている。その他地域包括の方に運営推進会議に参加して頂き、意見やアドバイスをもらっている	運営推進会議では、地域包括支援センターから助言をもらっている。市へは介護認定調査の際などに事業所の状況を伝え、情報共有を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修・外部研修を積極的に行い参加しながら周知に努めている。厚生労働省の「身体拘束ゼロへの手引き」を参考にユニットに周知するよう呼び掛けている。玄関の施錠は日中解放するようにしている。オープンから現在まで身体拘束の実例はない	身体拘束や高齢者虐待等に関する研修(内部・外部)を定期的に行うとともに、毎月開催されるユニット会議で支援の振り返りを行っている。運営推進会議で事業所の取組みについて報告をしている。日中は施錠は行っておらず見守りによる支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を定期的に行い虐待とはどんなことを指すのか、職員に認識してもらっている。職員のストレスがないのかも不定期で面談をし、虐待に繋がる小さな芽を摘むようにしている。資料なども各ユニットに配布している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時に渡す施設の業務マニュアルの中に権利擁護について書いた資料を渡している。その他外部研修に行くなどして学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明には時間をかけ、丁寧に説明している。項目ごとに質問がないかを聞き、十分理解していただく努力をしている。重要事項説明書の変更があった場合は家族に知らせ同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い家族様からの意見や要望を聞いている。家族様とメールのやり取りもしており、随時意見や希望は聞くようにしておりすぐにユニット職員に伝え素早く支援に反映させている	家族には毎月、手紙で日頃の様子を伝えるとともに必要に応じてメールのやり取りをしている。また、運営推進会議で意見等を聴いている。利用者からは、普段の会話から把握するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見は月に一度行うユニット会議やリーダー会議で話し合い、そこで運営に関する提案や意見を聞き、必要に応じて管理者から代理者へ報告している。	月に1回開催されるユニット会議やリーダー会議などでにおいて運営に関する職員の意見を聞く機会にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月に今年度の目標シートを職員に配り個々の目標の聞き取りをしている。キャリアアップを目指す職員は希望の研修にいけるよう働きかけている。有給休暇を取りやすい人員配置に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、経験に応じた研修を実施している。資格のない職員には初任者研修を受講してもらい専門知識と技術を学んでもらっている。内部研修では各自介護技術や知識を発表する場を設ける計画を立て実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者と交流できる機会がある。介護福祉士会からの情報や研修にも積極的に参加し、そこで知り合った同業者に講師を依頼し、zoom研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思っていることに対して傾聴し、何度も同じ質問される事にもその都度しっかり向き合って答えた。それによって信頼してもらえるようになり、関係性も良い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に入浴の回数などご家族の要望をお聞きし、ユニット内で対応した。具体的には入浴回数を増やしてほしいとの希望だったが、増やした結果ご家族に大変喜んでいただいた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	帰宅願望が強いご利用者でご家族も心配しておられたが、根気よく関わることで少しずつ帰宅願望が終息し、安心していただけた		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ダンスや居室の整理を定期的と一緒にいたり、洗濯畳などを共にしながら会話コミュニケーションを持つように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に日ごろの様子を手紙でお知らせしている。家族の声が聴きたいと言われるご利用者には、ご家族と連携し電話をしていただくなど支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	回想法でその方の人生を振り返っていただいている話をお聞きしたりそのころに流行った歌と一緒に歌ったりしている	コロナ禍の制限がある中でこれまでの生活や人生について話を聞く機会をもち、これまでに大切にしてきた人や場所の把握に努めるとともに必要に応じて対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の名前を覚えてもらえるようなことをレクの一環で取り入れたり、ペアを組んで食事メニューを覚えてもらい忘れ一方の方のサポートをしてもらうなど関係性を作っていただく支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時でも関係機関との情報共有、相談等の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心細いと言われるご利用者には、居室へ戻られる際に手をつなぐ・ボディタッチを行い同行することで安心していただけるよう支援している	発する言葉の意図や雰囲気から思いをくみ取り、意向の把握に努めている。また、家族には月に1回、職員から写真付きで「日頃のご様子」の手紙を送っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人の時間を大切にされるご利用者には新聞や雑誌の提供をし、ゆっくりと過ごしていただいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時などに必ず気分や体調の不具合を尋ねる声掛けを行っている。体調不良に対してはすぐに提携クリニックに連絡している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでその方の状態を報告し合いながら「関わり」に対する意見交換を行い、ご家族に相談協力を求めながら対応している	本人や家族の意向をもとにチーム(管理者、計画作成担当者、介護職員)で介護計画を作成をして職員間で情報共有を行っている。医療との連携は月2回の往診時に聞きとるとともに、必要に応じて相談をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADLの変化を情報共有しながらケアの統一を行うことで対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族からの依頼で、家族の食事会に同行した。信頼関係があつてのことだと考えており、今後も依頼があればお受けしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催している。散歩に出かけ、近隣の住人の方との関わりを持っていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診クリニックとの報告・連絡・相談をしっかりと行いご利用者の健康管理に努めている	往診クリニックの医師・看護師が月に2回の訪問のほか必要に応じて相談や往診に応じてくれて緊密な連携がとれている、また、医療保険を使つての通所リハビリに通っている人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員に看護師がいないため、往診時の看護師と医師にご利用者の健康状態を伝え、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院があったご利用者は現段階でおられない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられているご利用者は現段階ではおられない	開設1年で、まだ、終末期の利用者はいないが、重度化した場合についての方針等は入居時に説明している。その都度、相談しながら対応を検討するということを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは常にスタッフルームの見えるところに置き、事故発生時には管理者に速やかに連絡を取っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。年に二度防災訓練を行っている。	事業所では定期的に避難訓練、防災訓練を実施している。地域との連携及び協力体制の構築は今後の課題と思われる。	今後、夜間想定訓練及び地域を巻き込んでの訓練の実施、BCP計画の策定について検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレでの声掛けの際には必ずノックをして更衣時には必ずカーテンを閉めている。排泄の失敗などに対しては気にされないようにお声掛けをしている	トイレは各個室に配置されており、一人ひとりのプライバシーは尊重されている。利用者の意思の尊重、利用者本位をモットーに丁寧なかかわり方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティタイムの時に飲み物の希望を聞き提供している。傾聴し今何がしたいのかを探りレクに反映している。手芸や工作レクでは好きなものを自身で選んでいただけるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を確認しながらメリハリをつけてやりたい事をできるだけ支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で髪の毛のブラッシングをして整えていたり、上着などを自身で選んでいたりしている。化粧道具がなくなったら近くのドラッグストアに職員と共に購入しに行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな食べ物をリクエストしていただき厨房に依頼したり片付けなどを職員と一緒にしている	専門の職員が厨房で作った食事を提供している。ご飯の盛り付けや、配膳、後片付けは利用者が手伝っている、また、利用者には月2回の食事レクやおやつレクで調理を楽しんでもらうようにしている、	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一度に飲水できない方には、居室に配茶をして声掛けをして水分を摂ってもらうようにしている。テーブル拭きや食器洗いなど声掛けをして参加していただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの時には常に一対一で見守りを行い、入れ歯の確認、残渣物がないかの確認をしている。夕食後に毎日義歯洗浄剤を使用し清潔に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前や入浴前、臥床前などに定期的に声掛けをすることで排泄パターンを作り、それを生かして自立支援をしている	現在の利用者の多くはまだ排泄自立していて、リビングから自室に戻って、排泄されているが、一部、できにくい人には定期的に誘導している。排便は自己申告でチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ないと便が硬くなるので水分摂取の声掛けを促している。便意がなくても一日一回トイレでいきんでもらうようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	早く済ませたい方・ゆっくり湯舟に浸かりたい方等に合わせ、ご利用者のペースで入浴していただいている。入浴剤など違い気分転換をしていただいている	利用回数や時間については個々の希望に応じた入浴の仕方を心がけている。拒否のある人には足浴にしたり、ゆずや入浴剤などを入れて、楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	血圧が低い方や傾眠傾向にある方、昼食後等に臥床頂くように声掛けをしている。夜間に不安になられるご利用者に対しては傾聴し安心して休んでいただけるよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法の確認を行い、誤薬がないように職員間でダブルチェックを実施している。落薬事故を防ぐために薬の量が多い方にはスプーンを使用し少しずつ確実に服用してもらえるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自己紹介をしていただく時間を設けて、ご自身の子供の頃の話などしていただいている。家事支援で役割を持っていただいている。集団レク・個別レクをすることにより楽しみを見つけて頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため現在外出は施設の花壇で水やりをしてもらったりするのみにとどめている	開設時がコロナ禍の最中で、この1年楽しい外出計画はほとんど実現できていない。そんな中でも、花見ドライブや近くのドラッグストア迄化粧品を買いに行ったりしている。敷地の周りに花壇があり、その水やりなどで外気に当たることができるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は困難なため、事務所内の金庫で預かり買い物に同行した際には自身で財布からお金を出し支払いをしていただくように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字が見えづらくなってきている方には代読を行ったり、ご希望された時は電話で話してもらうよう支援している。手紙も便箋を用意しいつでも書いてもらえる環境にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍ということもあり換気には気をつけており廊下の窓は常に薄く開けている。そのこともあり常に室内の温度管理には気をつけている。テレビのつけっぱなしには気をつけており、入居者にとって懐かしい歌を流したりしている	エントランスやリビング等の共有の空間は、日当たりもよく、明るい落ち着いた空間となっている。また、リビングの広い窓からは外の景色がよく見えて楽しめるようになっている。室内の温度や湿度には常に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士のコミュニケーションの場において、表情の観察を行いトラブルにならないように配慮している。花壇が見える位置に談笑用のスペースを作り、くつろげる環境づくりに心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を居室に置くことで本人が安心できる環境づくりをしている。定期的に衣類や荷物の整理整頓を実施して快適に過ごしていただけるように支援している	本人、家族と相談しながら、自宅で使われていた家具や馴染みのあるものを配置してその人らしい居室作りを心掛けている。洗面台とトイレが室内に取り付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事支援では、その方の出来ることを把握して行っていただいている。脳トレに関しても理解される内容を個々に把握して提供している		